

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100261		
法人名	一般社団法人 米内地域支援プラザ		
事業所名	グループホーム やまぼうし桜台		
所在地	〒020-0002 盛岡市桜台二丁目18-3		
自己評価作成日	令和2年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① 整理・整頓・清潔 ②利用者への寄り添った介護

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

協力医療機関の医師による月2回の訪問診療と訪問看護ステーションの看護師による週1回の訪問により、利用者の健康管理がなされている。コロナ禍のために、本年2月頃から家族の面会、ボランティアや実習生等の受け入れを止む無く断っているが、例年であれば法人が主催する夏祭りに地域住民が参加し、近隣の老人福祉センターや児童センターの諸行事に利用者に参加するなど、名実ともに地域に開かれた事業所として地域との交流が図られている。「ミニドライブ」と称して事業所の車で利用者が近場の公園や観光地に出かけたり、事業所の1階のカフェでのコーヒータイムや家族と利用者のリモート面会を導入するなど、利用者の日常生活の充実に努めている。市のハザードマップでは各種災害の危険地域に指定されていないこともあり、災害時は地域の高齢者や障がい者等に事業所を開放し、有効活用してもらうことを法人として前向きに検討している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年10月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼、週に一度の幹部会、職員によるミーティング等で確認している。	社是の「整理・整頓・清掃」「報告・連絡・相談」等を毎日の朝礼やミーティング等で確認している。また、幹部会(施設長、グループホームの主任、デイサービスの主任、ケアマネージャーで構成)の発案で「月間目標」を立て、社是の徹底に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本来であれば地域の住民や様々な団体と交流したいが、コロナウィルスの影響で外部との交流の機会が減少している。	例年は法人の「夏祭り」や「流しソーメン」に地域の住民が参加したり、老人福祉センターや児童センターの諸行事に利用者が参加するなど、事業所と地域との交流が図られていたが、今年度はコロナ禍のために事業所やセンター行事が軒並み中止になり、中学生・高校生・大学生・専門学校生の実習や地域住民・ボランティアの訪問も自粛され交流の機会が殆ど無くなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年通りであれば、地元米内中学校の学生の職場体験の受け入れや地域行事の祭りに参加する所だが、今年度はコロナウィルスの影響があり、開催されていないため、地域貢献する場が減ってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年中は9月24日に実施。入居者の現状を報告している。2月にも開催を予定していたが、中止としている。	運営推進会議は、自治会長、地域包括支援センター職員、地域の知見者(3名)、商店街代表、利用者の家族、法人職員(代表・副代表)の9名で構成されている。会議では「利用者の入居状況」「感染症対策」等について協議している。なお、今年度の開催はまだ1回に留まっている。	運営推進会議に3名の地域知見者、商店街代表が入るなど、事業所の周知や住民との交流に熱心に取り組んでいますが、コロナ禍によりメンバーが一堂に会しての開催が難しくなっています。書面での開催や参加人数を絞っての開催、意見・要望を聴取するための意見欄を設けたり、利用者代表の参加など開催方法を工夫し、2ヵ月に1回の開催に向けた取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年は実地指導を通して、業務の改善や見直しを行っている。	利用者1名が生活保護を受給し、ケースワーカーが定期的に訪問している。盛岡市の担当課による実地指導や要介護認定申請で窓口に向った際には、助言をもらったり情報交換をしている。運営推進会議のメンバーになっている地域包括支援センターの職員には、事業所からの色々な相談に対応して頂いている。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、定期的にサービスの在り方について検討を行っている。	ケアマネージャー・主任(4人)が委員となり、身体拘束防止委員会を年4回、職員研修会を年3回以上開催するよう努めている。グループホームは木造2階建ての建物の2階にあり、1階の玄関ドアは夜間以外は開錠しているが、2階エレベーター前のドアや階段のドアは、必要時には開錠されている。センサーは使用していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について学ぶ機会を設け、事業所内で虐待が起きないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現場では利用している人がいない。制度としては知っているので、必要な場合は情報提供を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、丁寧に説明し、納得してもらった上でサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望はほとんどないが、今年度は特にコロナウィルスの影響で面会に関する受け入れ可能時期などに関する問い合わせが多かった。施設としてはリモート面会ができるようにパソコンの購入を行っている。	家族が面会に来た時などに事業所に対する意見や要望を聴いているが、これまで意見等は殆ど受けていない。今年度はコロナ禍のために家族の面会は自粛し、事業所から電話で家族の意向の確認に努めている。運営推進会議に参加している家族代表からは、会議開催時にも伺っている。対面での面会を補うため新たにパソコンを購入し、ズームによるリモート面会を実施できる仕組みを整えたが、リモート面会に躊躇する家族が多く、これまでの実施は1回に留まっている。毎月、事業所が家族に宛てて利用者ごとのお便り(写真集)を添えて利用料の請求書を郵送している。	毎月家族に郵送している利用者ごとのお便り(写真集)に、利用者の生活の様子を載せて情報の発信に努めている。事業所と家族の双方向のやりとりが更に充実するよう、利用者のコメントや家族から意見を寄せていただけるような添え書きをするなどの工夫を期待します。

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や週一度の幹部会を通して、現場からの要望や検討事項を上げてもらい、協議している。	朝礼や随時の職員ミーティングで施設長が職員の要望や意見を聴取し、幹部会を通じて法人で検討している。社是にある「整理・整頓・清掃」の清掃について、職員から掃除用モップを業者用のものに更新して欲しいとの要望が出され、現在法人で検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	十分な職員の確保がなかなか難しく、研修に参加する機会や有給休暇等を十分に取らせることができないでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は積極的に職員と関わりを持ちながら、働きやすい環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響で積極的な交流は控えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的にコミュニケーションを取りながら、本人が感じている不安や要望を可能な限り解消している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設から家族へ毎月本人の写真を使ったA41枚程度のお知らせを作り、送っている。また、月に一度の会報やブログ等で利用者の情報をお伝えしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から本人の状態を聞き、現在の生活のどの部分に課題があるかを見極め、入居のタイミングや必要に応じて医療機関を受診してもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人の残存している能力を見極めて、できることを行ってもらっている。しかし、利用者の高齢化が進み、体力の低下があり、作業自体が困難になってきている。また、自分の身の周りのことで精一杯になっている方たちも多くなってきている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウィルスの影響で面会を一時的に制限せざるを得ない状況である。当施設では新たにリモート面会用にパソコンを購入し、zoom等のアプリを利用し、面会に変わる手段として家族にお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が望めば、可能な限り昔なじみの方々と関係作りに協力したいと考えているが、これまで利用者の友人など家族以外の方が訪問されることは少ない。	デイサービスの利用から入居に移行した2名の利用者は、デイサービスの職員や利用者時々だが交流を継続していたものの、コロナ禍のため中断している。新たな馴染みとなっていたコーラスグループや趣味のサークルの慰問も自粛され、月1回の理容師の訪問や訪問診療の医師等とのふれあいが貴重な機会になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で自然とできる人間関係が良好な場合はそのまま維持してもらい、上下の関係になるようなら介入し、対等な立ち位置になれるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば対応している。		

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望がある場合は可能な限り尊重している。思いや希望をうまく表現できない場合は、本人の今の気持ちを大事にしながら気持ちを支えていく。	言葉によるコミュニケーションが可能なのは9名中2名程度で、他の思いや意向を言葉で伝えることが困難な利用者については、表情や何気ない仕草から把握するよう心がけている。職員とマンツーマンになる入浴の際に自分の思いを吐露する利用者もあり、様々な生活場面で利用者が何気なく示す「思い」を見逃さずに個別のケース記録に書きとめ、職員間の共通理解に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りやなじみの物を使って部屋作りをしてもらい、心身の安定が得られるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の性格や体力を考慮し、レクリエーションや軽体操を行っている。また、利用者同士の相性も見ながら座席も工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に一度は担当ケアマネージャーと打ち合わせする時間を持ちながら、現状の把握、課題等について情報共有している。	ケアマネージャーが、入居時に家族等からの聴き取りによるアセスメントを行い入居時のケアプランを作成している。入居1ヵ月後に改めてケアプランを作成したのち、3ヵ月後、次いで6ヵ月ごとに家族の意向に配慮しながらモニタリングを行い、ケアプランを見直している。本年4月からは、職員の提案を採り入れて利用者ごとのフローシートを作成し、ケアプランの見直しに活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに時系列で把握できるように記録用紙を独自に作っている。起きたことを記録し、職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本来であれば、家族とのイベント(誕生日や何らかの記念日等)の時間を持ってもらいたいが、コロナウィルスの影響で自粛してもらっている。家族との面会の機会を作るために、リモートに対応できるパソコンを導入し、リモート面会を行い始めている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のアセスメントを基に、利用者の豊かな暮らしがどういったものかを想像し、その環境を作れるように支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関より、月2回の訪問診療を受けている。週一度の訪問看護も実施し、必要に応じて通院対応も行い、適切な検査や治療を受けられる体制を確保している。	入居時に利用者・家族と話し合い希望を伺ったうえで、利用者全員が、協力医療機関の月2回の訪問診療と週1回健康管理等のために来訪する訪問看護ステーションの看護師の支援を得ている。協力病院では、殆どの診療科に対応できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職も看護職も同じ記録用紙を使い、利用者の状態について情報共有している。疑問点は、職場内の看護職だけでなく、訪問看護の看護師等の意見も聞きながら柔軟に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の医療連携室や入院病棟と連絡を取りながら本人の状態を把握し、病院が行うカンファレンスにも積極的に参加し、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設の医療連携についての指針について説明を行い、重度化した場合や終末期の在り方についても説明を行い、同意を得ている。	入居時に、重要事項説明書に併せて「看取り」の指針やマニュアルを利用者と家族に説明し、同意を得ている。協力医療機関と連携し、これまでに5人の利用者を看取っている。「看取り」に関する研修は、協力医療機関の協力を得て数年前に1回実施し、その時の研修内容を事業所内研修で随時再確認し、職員間で周知徹底することで「看取り」に備えている。利用者の入院や「看取り」に協力的な協力医療機関の存在が家族や職員の支えとなっている。	

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを基に訓練を行い、実際に適切であった行動なども振り返りを行い情報共有し、定期的な訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練、近隣の地域住民とも積極的に交流を持ち、災害時の応援体制を作っている。	火災想定避難訓練は年2回、そのうち夜間想定訓練を1回実施している。非常食は1週間分備蓄している。事業所は高台の切土の造成地に立地しており、盛岡市のハザードマップでは水害等の危険区域には該当していない。隣接する中学校が避難所として指定されているが、段差やトイレなどを考慮すれば、火災を除き施設に留まることが最善としている。近くにはデイサービスやサービス付き高齢者住宅、老人福祉センターや児童センターがあり、近隣住民や近傍に居住する職員などにより、日中は勿論、夜間でも利用者の避難等を円滑に進めやすくなっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	少しずつ進行する認知症に対して、まずは職員が受け止めつつ、利用者が不安にならないような丁寧な声掛けを行っている。	トイレ誘導は、他の利用者に気づかれないように小声でさりげなく誘導している。スピーチロックなどの好ましくない対応について法人全体で取り組み、各施設長が職員に周知徹底している。広報誌やホームページへの利用者の写真の掲載は、事前に家族の了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべて画一して日課を行うのではなく、利用者の思いや希望も取り入れながら、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や思いに対して、居室対応や時間をずらしての対応を行っている。また、施設内行事への参加についても本人の意思を尊重しつつ参加の可否を決めている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から同じ衣類にならないように気を付けている。また、イベントや季節に合わせて、家族にも衣類の交換等に協力してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当法人の仕組みとして、メインの厨房があるため、実際に食事を作ることは少ない。また、利用者の高齢化が進み体力が低下し、持続的に作業に取り組むことが困難であり、また車椅子を利用している方が増加しているため、可能な方に準備や後片付けをしてもらっている。	近隣に立地する法人のサービス付き高齢者住宅の厨房で当該事業所居住者の食事と合わせてグループホーム利用者の食事も調理している。誕生会等の行事食や手作りおやつは、利用者の希望を聞き、事業所の台所で職員と利用者が協力して作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人に対して、食べる量や提供の仕方を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後には必ず口腔ケアを実施し、訪問歯科や歯科衛生士によるケアも取り入れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の記録から一人一人の排泄パターンを研究し、座薬や浣腸も取り入れながら、トイレでの排泄も促している。	布パンツの利用者は1名、リハビリパンツとパットを使用している利用者は5名、紙おむつの利用者は3名である。夜間のポータブルトイレの利用者はいない。トイレ誘導が必要な利用者は8名で誘導の必要がない利用者は1名だけである。高齢化と重度化が進行しているが、排泄の自立と現在出来ていることを維持する支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操を日課としながら、それに合わせてもも上げ運動や廊下を利用した歩行練習、施設のスロープを使った軽めのアップダウンをもちいた歩行練習などいろいろ工夫しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則として週2回の入浴日を設けている。その際に体調不良であったり、また気持ちが向かなく入浴できない場合は翌日以降で入浴対応したり、次回に持ち越したりしながら、本人の気持ちを尊重しながら柔軟に対応している。	月曜日と木曜日の午前が入浴タイムになっている。一人当たり、週に2回入浴している。車いす対応の利用者1名については、シャワー浴で対応している。異性介助を嫌う利用者は、同性の職員が介助している。入浴を嫌う利用者については、本人の希望を尊重し、入浴日を変更するなど臨機応変に対応している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の高齢化に伴い体力が少しづつ低下してきているため、一人一人の体力やその日の体調を見ながら、起こす時間や休息する時間を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の訪問診療と週1回の訪問看護の様子を伝えながら服薬調整を行っている。また、薬剤師とも情報を共有しながら、指導管理も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の性格や持ち味を把握しつつ、季節の行事等で話を振りながら話題を提供している。また、1階には喫茶スペースがあるので月に数回、コーヒーを飲む時間を提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今現在はコロナウィルスの影響で外出の機会は激減している。普段であれば、隣の児童センターで行われるセンター祭りや地域の運動会に参加しているが、今年は相次いで中止となったり、外部は招かないで縮小して行うなど、参加する機会が減ってきている。	ミニドライブと称して事業所の車に利用者を2、3人乗せて近場の公園や観光地に出かけている。利用者一人当たり週1回ミニドライブできるよう配慮している。事業所から車で5分のところに法人の畑があるが、利用者が畑に出かけるときも足腰の弱っている方が多いために車を利用している。利用者が高齢化により年々歩行が困難になってきているため、リハビリのために天気の良い日は敷地内の通路やテラスの散歩を日課にしている。	利用者の外出機会がコロナ禍のために激減し、日常生活の楽しみが減っているなか、事業所1階カフェでの週1回のコーヒータイムや利用者2、3人でのミニドライブなど工夫を凝らしています。利用者の個別外出、例えば誕生日のお祝い外出や思いでの場所の訪問など、さらに外出の機会を増やす支援を行うことにより、日常生活をより充実したものとする事が出来るのではと期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域にはマート桜台という小さなスーパーがあり、利用者と一緒に散歩がてら買い物に行ったりして、お金を使う機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙など特に制限は設けていないので、それぞれの家族から手紙や電話などがあった場合は本人におつなぎしている。また、自分から電話をかけたい場合でも、時間帯を調整してかけさせてもらっている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム やまぼうし桜台

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理・整頓・清掃は基本としているので、居室、施設内外は常にその状態が保たれている。空調に関しても全室エアコンが完備されているので、快適になるように職員が調整している。季節感を取り入れるため、洗面台や食堂のテーブルなどには季節の花を飾ったりしている。	共用空間である食堂には、食卓、椅子、テレビ、カラオケ装置が備え付けられている。壁面は折り紙や切り絵などで装飾され、大きな食卓には季節の花を活けた花器が置かれている。エアコンとパネルヒーターにより室温が適温で管理され、居心地のよい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では食事の時は介助や見守りの観点から決めさせてもらっているが、それ以外では自由に座ってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時、居室づくりについても家族に相談し、なるべくなじみの物で部屋を作ってもらおうようにしている。	各居室にはテレビ、ベッド、クローゼット、エアコン、パネルヒーターが備え付けられている。入居時に家族の写真や時計、雑誌など利用者にとっての馴染みのものを持ち込むことにより、居心地のよい居室になっている。居室の空調管理や清掃は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべて介助するのではなく、まずは声掛けを行い、目的の動作を促し、困難な場合又は危険な場合は介助するようにしている。		